

株主のみなさまへ

# TOWA REPORT

## 第59期 第2四半期事業のご報告

平成26年4月1日～平成26年9月30日

### CONTENTS

ごあいさつ .....	1
TOWA NEWS DIGEST .....	2
経営企画の視点から .....	3
業績の概要 .....	5
連結財務諸表(要約) .....	7
TOWA'S TOPICS .....	9
会社の概況と株式の状況 .....	10



くすりのあしたを考える。



東和薬品



代表取締役社長  
吉田 逸郎

## 薬価制度改革という変革がありつつも、 当期の業績は計画通りに推移。 さらなる安定供給体制の強化を進めてまいります。

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社の第59期第2四半期の事業のご報告（平成26年4月1日から平成26年9月30日）をお手元にお届けいたします。

当第2四半期の業績につきましては、平成26年4月の薬価制度改革において大きな変化があり、当社既存品の薬価が大幅に引き下げられ、一方、診療報酬改定でDPC病院の機能評価係数Ⅱに後発医薬品指数が新設されたことも一因として、販売数量が伸びました。このような状況の下、当第2四半期の業績も順調に推移いたしました。

また、ジェネリック医薬品の存在がますます大きくなるにつれ、安定供給が必須となっております。そのために、当社といたしましては、原薬の安定確保や製品在庫の保有な

ど、安定供給のための対策の一つひとつに真摯に取り組むことで、さらなる信頼性の向上につなげていきたいと考えております。

当期の配当金につきましては、連結当期純利益が前年比で増加に転じたものの、内部留保を勘案の上、株主の皆様のご支援にお応えするため、当初計画通り37.50円（配当性向15.7%）といたしました。

内部留保金につきましては、中長期的視点からの経営体質の強化、企業価値の増大を図るために、研究開発力の充実、生産能力向上・効率化のための設備投資、営業体制の拡充・強化などに充てさせていただきたいと存じます。株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

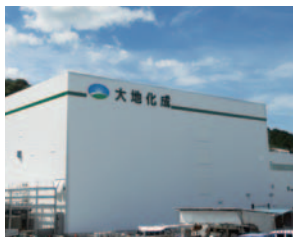
平成26年12月

### ●● 業界の動向

平成26年度薬価制度改革により、薬価の面でジェネリック医薬品メーカーにとっては厳しい制度変更がありました。その一方で診療報酬改定による病院や保険薬局におけるジェネリック医薬品の使用促進策も打ち出されています。このような状況だからこそ、ジェネリック医薬品メーカーには、これまで以上に製品の品質管理と安定供給に力を注ぐことが求められています。

## 原薬製造工場の建設

大地化成株式会社で建設中の兵庫工場は、原薬の合成を行う反応釜や溶媒を除去する乾燥機など、製造棟への製造設備の設置が完了。今秋からは製造設備の試運転（バリデーション）が開始されるなど、平成27年3月の稼働へ向けて着実に建設が進んでいます。



# TOWA NEWS DIGEST



この半期の主な取り組みと新製品をご紹介します。

## 5月、6月に新製品を発売

5月に勃起不全（ED）治療薬のシルデナフィルOD錠、6月にジェネリック医薬品初となる高血圧症治療薬のバルサルタンOD錠など9成分18品目をそれぞれ発売しました。ED治療薬は偽造医薬品や非

正規流通による健康被害が問題視されています。当社製品は、独自の「RACTAB（ラクタブ）技術」などを用いた偽造医薬品への対策や「東和式直販体制」による適正流通に努めています。



## 営業所の開設・移転

唐津（4月7日）、函館（6月1日）を新規開設し、合計59営業所体制となりました。また、多摩を移転し、昭島へ名称変更しました（9月22日）。

## 学会活動・医療関係者向けウェブサイトのリニューアル

医療関係者への情報提供活動として、第31回日本TDM学会・学術集会（5月31日）や第24回日本医療薬学会年会（9月27日）で共催セミナーを実施。また、展示ブースではOD錠（口腔内崩壊錠）

への製品名印刷やT-LEX法（薬剤性ヒト肝障害リスク予測法）など、当社独自の取り組みを紹介しました。さらに、医療関係者向けウェブサイトのリニューアルや抗がん剤情報に特化したウェブサイト

の開設など、積極的な情報提供を行っています。

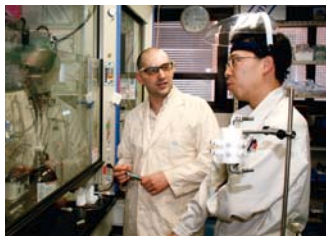


## 東和薬品グループ全体で114名を新卒採用

平成26年度、東和薬品グループ全体で114名の新卒採用を行いました。今後のジェネリック医薬品の需要増への対応として、さらなる安定供給や情報提供体制の強化、付加価値製剤の開発の強化などを目的に、人員増強を進めています。



## 東京大学COI（センター・オブ・イノベーション）原薬合成の研究が始まる



参画機関として選定された東京大学を拠点とするCOIプログラム「若者と共存共栄する持続可能な健康長寿社会を目指す～Sustainable Life Care, Ageless Society COI拠点～」。東京大学の研

究室にて当社研究員による原薬の合成プロセスに関する研究がスタート。より飲みやすく扱いやすい革新的な技術のジェネリック医薬品の開発を目指しています。



# 市場変化を乗り越え、東和ブランドを

今年の4月に行われた薬価制度改革や厚生労働省からのロードマップの発表など、使用促進に向けた動きが本格化。ジェネリック医薬品業界は今、大きな変化の時を迎えています。

制度改革による競争の激化。  
当社への影響と業績は。

4月に行われた薬価制度改革により、すでに発売されているジェネリック医薬品の薬価を3価格帯に集約する薬価算定ルールの新設や、新規収載品の薬価が先発医薬品の0.7掛け（一部0.6掛け）から、0.6掛け（一部0.5掛け）へ引き下げが行われました。これにより当社製品の薬価は大幅に下落。しかし同時に行われた診療報酬改定では、保険薬局の後発医薬品調剤体制加算が見直され、DPC病院の機能評価係数Ⅱに後発医薬品指数が新設されました。その結果、保険薬局及びDPC病院で当社製品の採用が進み、なかでもRACTAB（ラクタブ）技術を用いたOD錠などの製剤工夫をした製品を大きく伸ばすことができ、薬価引き下げの影響をカバーすることができました。

取締役 執行役員  
企画本部長 兼  
経営企画部長

西川 義明



# 確立するために。

## より一層強まる、“安定供給” “情報提供”への要望に応えるため。

平成25年4月に厚生労働省から発表された「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」により、安定供給体制の確保が、より一層必要になってきました。平成24年4月の山形工場完成で、3工場合わせて年間75億錠の生産能力を確保しましたが、今後125億錠体制まで引き上げるための設備投資を順次行い、生産体制の完成を目指しております。また情報提供においては、「東和式直販体制」が整備されましたが、こちらもさらなるシェア確保のため大都市圏への営業所を十数カ所程度整備していく考えです。

## 大きく変化する市場で、 着実に正確な舵取りを。

このように、現在ジェネリック医薬品を取り巻く環境は大きく変化しております。そのため現時点で、中期経営計画を策定しても不確定要素が多く、大幅に修正を行うことが予想されます。確実な情報をお届けできるよう精査し、次期中期経営計画を発表させていただきます。



# 業績の概要

## 業績ハイライト(連結)

### 売上高



POINT  
1

### 売上高

当第2四半期の売上高は33,468百万円(前年同期比17.2%増)となり、順調に売上を伸ばすことができました。製品別では、アムロジピン製剤やランソプラゾール製剤、アトルバスタチン製剤など、付加価値の高い製品を中心に売上が順調に推移しました。

### 経常利益

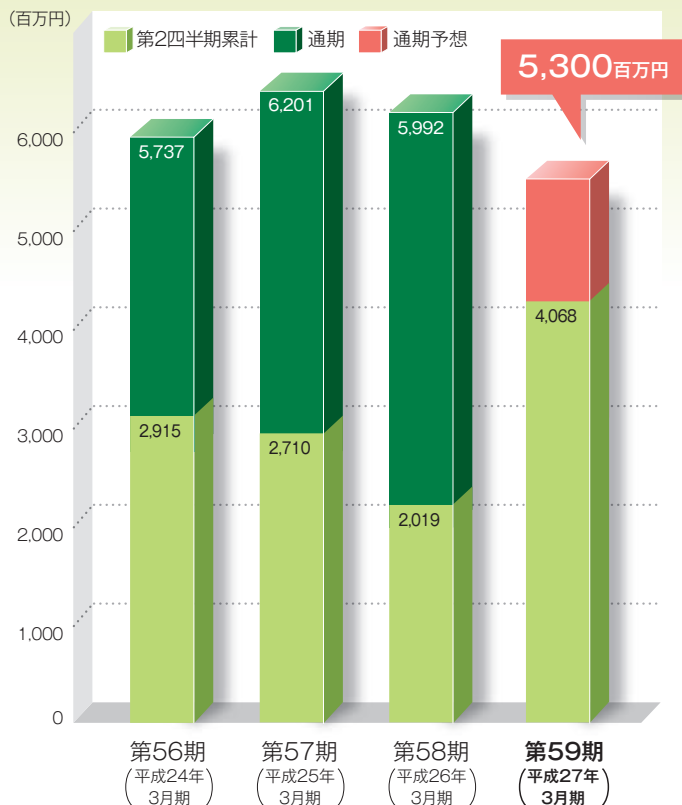


POINT  
2

### 経常利益・四半期純利益

当第2四半期の経常利益は5,550百万円(前年同期比76.7%増)となり、当第2四半期の連結業績予想(3,150百万円)を大幅に上回るペースで推移しました。また、四半期純利益は4,068百万円(前年同期比101.4%増)となりました。4月の薬価制度改革により薬価の大幅な見直しが行われ、当社既存品の薬価が大幅に引き下

## 四半期純利益



げられましたが、売上数量の増加に伴う生産数量の増加、山形工場の減価償却費の減少や経費率の低下などにより、営業利益率が前年同期比1.6ポイント改善しました。また急速に進んだ円安の影響により、デリバティブ評価益(スワップ取引)882百万円を計上したことにより、経常利益・四半期純利益が大幅に増加しました。

## 1株当たり四半期純利益



**通期の見通し** 当第2四半期の業績は、5月14日に公表した計画に対して、売上は若干下回ることとなりましたが、利益は大幅に上回るペースで推移しています。通期においても厳しい競争環境が継続するものと考えており、通期見通しは、公表計画通り、売上高72,000百万円、営業利益7,800百万円、経常利益7,800百万円、当期純利益5,300百万円と見込んでいます。

# 連結財務諸表(要約)

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期 (平成26年 3月31日現在)	当第2四半期 (平成26年 9月30日現在)	増減
<b>(資産の部)</b>			
<b>流動資産</b>			
現金及び預金	6,038	3,227	△2,810
受取手形及び売掛金	19,505	19,948	442
① 有価証券	4,637	1,000	△3,637
② たな卸資産	22,674	25,182	2,507
③ スワップ資産	1,624	2,507	882
その他	2,466	2,367	△98
貸倒引当金	△152	△30	122
<b>流動資産合計</b>	<b>56,794</b>	<b>54,203</b>	<b>△2,590</b>
<b>固定資産</b>			
建物及び構築物	21,663	21,358	△305
土地	7,249	9,109	1,860
④ 建設仮勘定	3,470	6,247	2,776
その他	10,204	10,460	255
<b>有形固定資産合計</b>	<b>42,587</b>	<b>47,175</b>	<b>4,587</b>
<b>無形固定資産合計</b>	<b>906</b>	<b>819</b>	<b>△86</b>
投資有価証券	1,937	2,181	244
その他	1,099	1,109	9
貸倒引当金	△6	△5	0
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>3,029</b>	<b>3,284</b>	<b>254</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>46,523</b>	<b>51,279</b>	<b>4,755</b>
<b>資産合計</b>	<b>103,318</b>	<b>105,483</b>	<b>2,165</b>

POINT  
1

### 有価証券

1,000百万円と前期末に比較し、3,637百万円減少しています。譲渡性預金の満期により、減少しました。

POINT  
2

### たな卸資産

25,182百万円と前期末に比較し、2,507百万円増加しました。売上の増加に伴い、たな卸資産が増加しているものであり、適正在庫を維持しています。

POINT  
3

### スワップ資産

2,507百万円と前期末に比較し、882百万円増加しました。外貨建てでの原料購入代金に充てる目的で実施しているデリバティブ取引(スワップ)の評価益が、急速な円安の進行により増加しました。

POINT  
4

### 建設仮勘定

6,247百万円と前期末に比較し、2,776百万円増加しました。大地化成の原薬製造工場の建設に伴うものであり、平成27年3月の稼働へ向け順調に進捗しています。

(単位:百万円)

科目	前期 (平成26年 3月31日現在)	当第2四半期 (平成26年 9月30日現在)	増減
<b>(負債の部)</b>			
<b>流動負債</b>			
支払手形及び買掛金	9,775	10,868	1,092
未払金	3,602	3,546	△56
未払法人税等	1,915	1,479	△435
その他	9,463	8,740	△722
<b>流動負債合計</b>	<b>24,757</b>	<b>24,634</b>	<b>△122</b>
<b>固定負債</b>			
長期借入金	16,620	15,471	△1,149
その他	1,792	1,764	△28
<b>固定負債合計</b>	<b>18,413</b>	<b>17,236</b>	<b>△1,177</b>
<b>負債合計</b>	<b>43,170</b>	<b>41,870</b>	<b>△1,299</b>
<b>(純資産の部)</b>			
<b>株主資本</b>			
資本金	4,717	4,717	—
資本剰余金	7,870	7,870	—
利益剰余金	48,049	51,480	3,431
自己株式	△639	△639	△0
<b>株主資本合計</b>	<b>59,998</b>	<b>63,429</b>	<b>3,431</b>
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>149</b>	<b>182</b>	<b>33</b>
<b>純資産合計</b>	<b>60,147</b>	<b>63,612</b>	<b>3,465</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>103,318</b>	<b>105,483</b>	<b>2,165</b>



## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)	当第2四半期 (平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで)	増減
5 売上高	28,559	33,468	4,909
売上原価	14,478	17,074	2,595
売上総利益	14,080	16,394	2,313
6 販売費及び一般管理費	10,961	12,211	1,249
営業利益	3,119	4,183	1,064
営業外収益	321	1,445	1,123
営業外費用	300	78	△222
経常利益	3,140	5,550	2,409
特別利益	0	0	0
特別損失	115	14	△101
税金等調整前四半期純利益	3,025	5,536	2,510
法人税等	1,005	1,467	462
四半期純利益	2,019	4,068	2,048

POINT  
5

### 売上高／売上原価／売上総利益

当第2四半期の当社グループの売上高は、33,468百万円（前年同期比17.2%増）となり、順調に売上を伸ばすことができましたが、当初業績予想（34,300百万円）に対して若干下回ることとなりました。また、4月の薬価制度改革により薬価の大幅な見直しが行われ、当社既存品の薬価が大幅に引き下げられましたが、売上数量の増加に伴う生産数量の増加、山形工場の減価償却費の減少や経費率の低下などにより、売上総利益率は前年同期比0.3ポイントの悪化に留まりました。

POINT  
6

### 販売費及び一般管理費

当第2四半期は、付加価値製剤などを含む開発品目の増加による研究開発費の増加、要員増に伴う人件費の増加、売上数量の増加に伴う物流コストの増加などにより、前年同期比11.4%増加しました。

## 7 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)	当第2四半期 (平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで)	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,650	3,342	691
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,889	△3,587	301
財務活動によるキャッシュ・フロー	△715	△1,766	△1,050
現金及び現金同等物に係る換算差額	53	63	10
現金及び現金同等物の増減額	△1,900	△1,947	△47
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	65	—	△65
現金及び現金同等物の期首残高	3,985	4,675	689
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,150	2,727	577

POINT  
7

### 連結キャッシュ・フロー計算書

現金及び現金同等物は、2,727百万円となりました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」

税金等調整前四半期純利益5,536百万円などの収入があり、3,342百万円の収入となりました。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」

有形固定資産の取得による支出7,805百万円などがありましたが、譲渡性預金の満期などにより、差引3,587百万円の支出となりました。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」

長期借入金の返済による支出1,469百万円、配当支払637百万円などがあり、1,766百万円の支出となりました。



(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## ワタシの、 センタク。

### 新たにメッセンジャーが加わりました。

「ワタシの、センタク。」を  
より身近に感じていただくために

#### 人生の“センタク”に 役立つプロジェクトとして

人生は“センタク”の連続です。そんな大切な人生の“センタク”を、さまざまな角度から応援する「ワタシの、センタク。」プロジェクト。ウェブサイトでは、著名人の人生の“センタク”インタビューから、暮らしや健康に役立つ情報、またお料理のレシピやココロを潤す旅、趣味など多彩な内容をお届けしています。また、全国各地で開催されているイベントにて小冊子を配布し、一般の方々との交流を図る啓発活動を行っています。今秋より、本プロジェクトはテレビCMでも展開しています。



「ワタシの、センタク。」 <http://towa-sentaku.jp>

#### ●コンテンツ内容

- ・生き方の、センタク。
- ・あの一ひとの、センタク。
- ・今日の献立を、センタク。
- ・行き先を、センタク。
- ・東和薬品の、センタク。

※毎月10・22日の2回更新

#### 新テレビCMから プロジェクト名をメッセージに

自ら薬を“センタク”できることを知っている方は、まだまだ多くありません。そこで当社では、「ワタシの、センタク。」をCMメッセージとして使用し、11月の新テレビCMより黒柳徹子さんとともに、南こうせつさんに新たにご登場いただきました。人生の“センタク”を迫られる世代にとって、南こうせつさんは身近な存在。お二人の対談を通して、ジェネリック医薬品を“センタク”することが、自分にとって、社会にとって



記者発表会の様子



会場は報道関係者でいっぱい

ポジティブな行動になるというイメージの浸透を、テレビCMからプロジェクト全体に発信していきます。なお、11月5日に東京で行った記者発表会には、88社129名の報道関係者にお越しいただきました。

提供番組については裏表紙をご覧ください。

# 会社の概況と株式の状況 (平成26年9月30日現在)

## 会社概要

社名 東和薬品株式会社  
 本社 〒571-8580 大阪府門真市新橋町2番11号  
 TEL:06-6900-9100 (代表)  
 代表者 代表取締役社長 吉田 逸郎  
 創業 昭和26年6月  
 設立 昭和32年4月  
 上場取引所 東京証券取引所市場第一部 (証券コード:4553)  
 資本金 47億1,770万円  
 事業内容 医療用医薬品の製造・販売  
 自社製品 646品目 (平成26年6月現在)  
 従業員数 1,862名 (平成26年10月1日現在)  
 取引銀行 三菱東京UFJ銀行 門真支店  
 みずほ銀行 守口支店  
 三菱UFJ信託銀行 大阪支店  
 日本政策投資銀行 関西支店  
 研究所 中央研究所 製剤研究所 京都分析科学センター  
 工場 大阪工場 岡山工場 山形工場  
 子会社 ジェイドルフ製薬株式会社 (医療用医薬品の製造販売)  
 大地化成株式会社 (医薬品原薬・中間体の研究開発及び製造)

## 株式の状況

発行可能株式総数 ..... 49,000,000株  
 発行済株式総数 ..... 17,172,000株  
 1単元の株式数 ..... 100株  
 株主数 ..... 4,530名

## 大株主一覧 (上位10名)

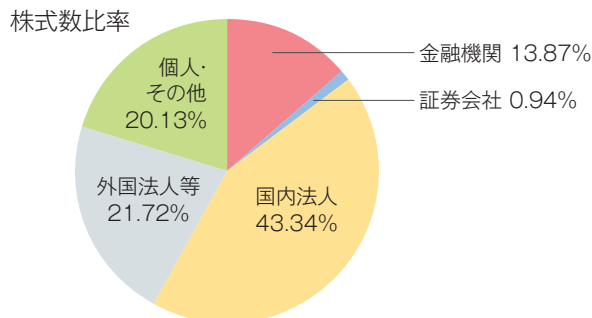
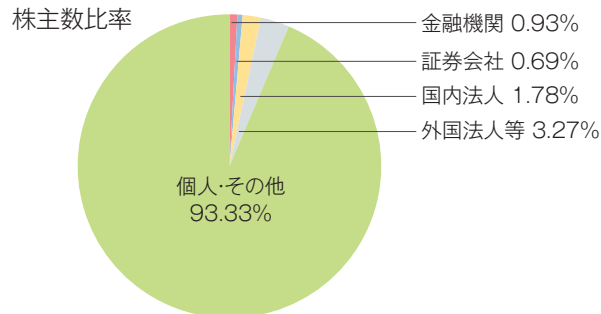
株主名	持株数	持株比率
(株)吉田事務所	4,700千株	27.65%
(有)吉田興産	2,000	11.76
ピクテアンドシーヨーロッパエスエー	539	3.17
吉田 逸郎	485	2.85
東和薬品共栄会	436	2.56
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント	409	2.40
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	389	2.29
(有)吉田エステート	300	1.76
東和薬品社員持株会	284	1.67
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	281	1.65

## 取締役及び監査役

代表取締役社長 吉田 逸郎	取締役 前山 茂
専務取締役 大澤 孝	取締役 今野 和彦
常務取締役 播磨 武	取締役 沖本 和人
常務取締役 野口 豪	取締役 椋田 隆司
常務取締役 猪熊 俊	常勤監査役 栗原 一夫
取締役 藤本 正義	監査役 皆木 武久
取締役 藪下 啓二	監査役 森野 實彦
取締役 西川 義明	監査役 辻 弘
取締役 森野 禎之	

※は会社法 第2条 第16号に定める社外監査役です。

## 株主分布状況



(注) 持株比率は、自己株式(176,770株)を控除して計算しています。

## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 6月に開催  
剰余金の配当の基準日 3月31日、9月30日  
1単元の株式数 100株  
公告掲載方法 電子公告によって行います。  
<http://www.towayakuhin.co.jp/ir/stock/koukoku.html>  
但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人ならびに特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
同事務取扱場所 〒541-8502  
(お問い合わせ先) 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
大阪証券代行部  
TEL:0120-094-777(通話料無料)

### ◎住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

口座を開設されている証券会社等にお申出ください。なお、特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

### ◎未払配当金の支払について

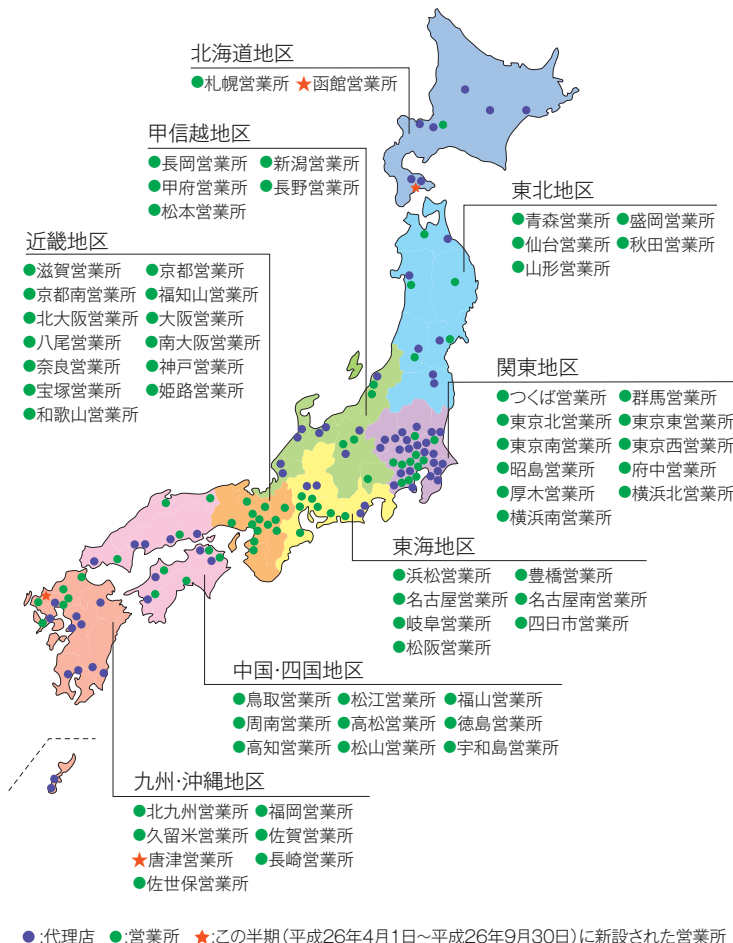
株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し付けください。

### 📺 次のテレビ番組を提供しています。

- 報道ステーション テレビ朝日系24局ネット  
毎週月曜日 21:54-23:10
  - 火曜サプライズ 日本テレビ系28局ネット  
毎週火曜日 19:00-19:56
- ウェブサイト (<http://www.towayakuhin.co.jp>) からご覧いただけます。

## 営業・販売拠点のご紹介

当社は営業所の新設や移転による販売流通網の整備を進め、代理店68カ所・営業所59カ所を拠点に、営業・販売活動を行っています(平成26年9月30日時点)。今後も引き続き「東和式直販体制」のさらなる強化を図ってまいります。



### ◎見通しに関する注意事項

当報告書の記載内容のうち、歴史的事実でないものは将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見通しとは異なる場合がございます。



〒571-8580 大阪府門真市新橋町2番11号  
TEL:06-6900-9100(代表)  
<http://www.towayakuhin.co.jp>  
皆様からのアクセスをお待ちしています。